# This Page Is Inserted by IFW Operations and is not a part of the Official Record

# **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

# IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning documents will not correct images, please do not report the images to the Image Problem Mailbox.







# 中華民國經濟部智慧財產局

INTELLECTUAL PROPERTY OFFICE MINISTRY OF ECONOMIC AFFAIRS REPUBLIC OF CHINA

茲證明所附文件,係本局存檔中原申請案的副本,正確無訛,

其申請資料如下:

This is to certify that annexed is a true copy from the records of this office of the application as originally filed which is identified hereunder:

申 請 日: 西元 2003 年 12 月 31 日

Application Date

申 請 案 號: 092223123

Application No.

申 請 人: 洪明雪

Applicant(s)

인 리터 리너 인터 리터 이터 이터 이터 이터

局

長

Director General







發文字號: 09320299250

Serial No.

जह जह

申	請日	期	:	IPC分類
申	請案	號	:	•

(以上各欄由本局填註) 新型專利說明書						
-	中文	手、腰、腹健身器之改良				
新型名稱	英 文					
	姓 名 (中文)	1. 洪明雪				
÷	姓 名 (英文)	1. HUNG, MING-SHUEH				
創作人 (共1人)	國 籍 (中英文)	1. 中華民國 TW				
	住居所 (中·文)	1. 台北縣土城市中央路二段396巷28號				
	住居所(英文)	1.				
	名稱或 姓 名 (中文)	1. 洪明雪				
	名稱或 姓 名 (英文)	1. HUNG, MING-SHUEH				
三、	國 籍 (中英文)	1. 中華民國 TW				
申請人(共1人)	住居所(營業所)	1. 台北縣土城市中央路二段396巷28號 (本地址與前向貴局申請者相同)				
	住居所(營業所)	1.				
	代表人(中文)	1.				
	代表人(英文)	1.				



### 四、中文創作摘要 (創作名稱:手、腰、腹健身器之改良)

五、英文創作摘要 (創作名稱:)



四、中文創作摘要 (創作名稱:手、腰、腹健身器之改良)



之健身功效者。

五、英文創作摘要 (創作名稱:)



# 六、指定代表圖

伍、(一)、本案代表圖為:第一圖

(二)、本案代表圖之元件代表符號簡單說明:

1 主體 113顯示幕 41凸環

2 手握桿 3 支桿 4 腹靠板

5 連 結 桿 6 轉 體 6 1 3 感 應 磁 塊

6 4 6 LED燈



### 一、本案已向

國家(地區)申請專利

申請日期

案 號

主張專利法第一百零五條準用 第二十四條第一項優先權



無

二、☑主張專利法第一百零五條準用第二十五條之一第一項優先權:

申請案號:1.92210571

日期: 1.2003/06/10

三、主張本案係符合專利法第九十八條第一項□第一款但書或□第二款但書規定之期間

日期:



### 四、創作說明(1)

# 一、【新型所屬之技術領域】

本創作係有關於一種手、腰健身器之改良,其主體與支桿連結穩固,且主體可藉以支桿為軌朝著腹靠板之方向移動,並主體與腹靠板藉由支桿二端嵌固定位不致產生軸向轉動者;另轉體與連結桿之豎段樞合,且連結桿之橫段與主體嵌合穩固,可增進轉盤樞轉時之穩固性及使用安全性者。

### 二、【先前技術】

## 三、【新型內容】

本創作手、腰、腹健身器〔請參閱第一及二圖〕,係由主體(1)、手握桿(2)、支桿(3)、腹靠板(4)、連結桿(5)及轉體(6)組成;

主體(1)[請參閱第三圖],係由上環(11)、下環(12)、彈性元件(13)及滑塊(14)構成之中字形環體;其上環(11)中心處預設有向下之半圓形





### 四、創作說明 (2)

1 ) [ 請 一 併 參 閲 第 七 圖 ] 且上環 ( 及左 右側 뱜 設有向下之半圓 形 1 [請參閱第三及七 並上環 1 1 子計數器 中心處預設有向上之半 2 員 形 及左 右 三及 並 環 方 穿 之前端 嵌 閱 第五 읍 性元 下環 其嵌設於上環 1 2 之滑 1 ) 1 1 1 4 其銜接於彈性元件 ) 內 塊 ( ) )、下環( 且 活 於上環 ( 1 1 2 ( 1 1 1 內部者

其 嵌設於上環 ( 1 1 、下環 2 2 2 1 1 ) 內部,為由嵌 2 街接構成 1 及操

為 與滑塊 1 4 )結合一體之橫向 前 ( 桿 體 方凹設一缺口向下之限位槽 上環 、 下 環 前 嵌 1 1 之 滑 槽 2 1 1 ) 內部者

腹靠板(4),係具有曲弧彎度之板體,其前壁之凸環(41)可供支桿(3)後端嵌固定位者;

連結桿(5),係上横段嵌入上環(11)、下環(





四、創作說明 (3)

12)前端容桿槽(112)(122)內部之「形桿體.

, 係由上盤(61)、樞轉環(62 6 4) 組成,且藉以連結桿 [ 請 一 併 參 閲 第 五 及 六 圖 下豎段為支軸之樞 轉構造 面偏侧設一向上突起之中空凸球部 於凸球部 (6 1 1 頂端設一 ) 之旁側組設一感應磁塊 1 2 1 1)之底緣與滑塊槽 ( 6 1 4 6 2), 係上端 穿 凸球部 ( 6 1 1 **,再與連結桿(** -5 ) 之下 豎 段 套 固 一 體 之 凸 形 2)之下端形體與凸球部(6 樞轉環 6 且樞轉環(62)之底緣設一樞轉凸環 3 ) , 係 中 心 處 設 有 螺 紋 孔 配重 塊 ( 6 )由下向上螺入之可移動構件 6 3 2 1)之向上凸球部(6 應 上 盤 (6 下凸球部(6 4 -1 6 1 4)設有向 42)底部設一跑道形長 且滑塊槽 (6 ) , ),此長孔(643)可供螺桿(632)由 下往上穿貫者

其中,具有二端部之 下形連結桿 (5),亦可設為具有三端部之 下形 [請參閱第八及九圖],其 下形連結桿 (5 a)之外端及下端皆可與轉體 (6)之樞轉環 (62)上端套固,則轉體 (6)藉以連結桿 (5 a)為支軸,可





### 四、創作說明 (4)

產生平行主體(1)及垂直主體(1)樞轉之功效者。

之滑塊 ( 1 4 二側設有 動於上環 ( 1 環 此滑塊 1 且 滑 組成之滑 側具有 平行切面之嵌桿 其 嵌桿槽 段 插 另 二侧設有平行切面之嵌合 平行切面之嵌合段 其 可插 二側亦設具有 具有平行切面之嵌桿槽 可穩固連結,俾以杜絕主 與腹靠 板 4 4 . ) 軸向旋轉者 及腹靠板 (

6 1 6 1 1 旁 側之感應磁塊 位於凸球部 ( ) 2 6 握 桿 致使轉 ) 以 戸形連 施力操作 手 ( ) 其 感應磁塊 3 主體 桿 為軸旋轉 時 1 底面之感應計 數 器 ( 1 2 4 之間 放感應 放感應訊號 可傳 此磁 力 吸 • 1 3 1 上 方之 電 子計 於主體 上環 (  $1 \cdot 1$ ) 轉 動數值者 過計 數之轉 6 ) ,進而顯 示 經

2 部 李固一連結環 中 心處 ) 之内 2 設有齒輪環 連結環 6 壁 凹 内 結 2 方 套 固 並 連 環 0 下 2 2 1 電 6 閱 三及五 之 2 2 2 此 發 電 6 之 中 6 對應齒合者〔請參閱第五及五之一圖 (620)1 )





四、創作說明 (5)

(6)之下盤 (64) 凸球部(64 1 4 9 此容 器槽 ( 6 4 9 ) 可供發聲器 於發 器 6 4 8 ) 周 圍 連結有來自發 6 4 源線 且 E 燈 6 6 其 D 4 2 1 環 6 1 合轉動所產 6 4 8 出 流 可驅使發 聲 器 ( 聲 及 L E D 燈 容器槽 另 ( 6 4 9 ) 底部環設數穿孔 器 6 4 8 ) 通電後所產生之聲音 ( 6 4 5 向外導出者

2 1)及操作段( 其手握桿 ( 之嵌固段 ( 2 係由嵌設於操作段 ( 2 2 ) 內部之雙凸粒彈扣 〔請參閱第三圖 2 達成 〕,且嵌固段 ( 1 組相距大約50度之凸粒穿孔 則操作段 )之平行面,可有上揚25度及下揚 1 其上、下揚起之角度恰符合操作者施力之人體功學 者

(123)其穿貫下環(12)之限轉桿 頂端 進而達到防止支桿 ( 3 )之限位槽 - 1 ) 中 另限轉桿 ( 1 2 3 ) 頂端亦可防止支桿 動之功效 與滑塊 之結合處脫離 當 ( 1 4 ) 而 支桿 卸離可將限轉桿 (1 2 3 退出限位槽 ) 則支桿 ( 3 與主體(1)可簡 、迅速分離 利包裝運輸與收納者





### 四、創作說明 (6)

### 四、【實施方式】

操作使用本創作手、腰、腹健身器時,先將腹靠板(4)之弧凹面與腹部貼合,且雙手緊握手握桿(2)之操作段(22),接著藉以雙手實施扣拉力將主體(1)壓向腹靠板(4)[請參閱第七圖],再放掉扣拉力使主體(1)藉由彈性元件(13)之伸張力移離腹靠板(4),如此反複操作可達到運動雙臂及腹部之功效者。

當使用者藉由雙手作用手握桿 2 ( ) 帶動主 ,可間接驅使轉體(6)平行主體 (63)可使轉體 ) 內部之配重塊 ,如此反複操作可達到運動腰部及腹部之功 樞轉產生阻力 配重塊(63)中心之螺桿 (6 3 其 變配重塊(63)組設之位置 [ 請 參 閱 第 五 )之配重塊(63)越靠近樞轉環 (6 其 框 轉 阻 力 越 大 , 反 之 , 當 轉體 ( 3 ) 間隔樞轉環(62)之位置加大,其樞轉阻 力越小者

(6) 之 ┌ 形 連 結 桿 (5) 與主體(1)平行 〕,施力操作主體(1)產生水平向 第四圖 動具有配重塊(6 3 )之轉體 平 書 圓 之 動 作 , 可 帶 ,則施力之操作者可藉由手、腰、 ( 1 )樞轉 書 圓 之 動 作 , 達 到 運 動 手 部 、 腰 部 及 腹 部 之 健 身 功 效 當轉體(6)樞設於一形連結桿( 5 а ) 外端與主體 1) 垂直組設〔轉體(6)亦與地面垂直〕,施力操作主





### 四、創作說明 (7)

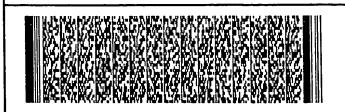
體(1)產生垂直方向畫圓之動作,可帶動具有配重塊(63)之轉體(6)垂直主體(1)樞轉,則施力之操作者可藉由手、腰、腹上下畫圓之動作,達到運動手部、腰部及腹部之健身功效者。

藉以樞轉環(62)為支軸旋轉〔請參 (6),其同步轉動之連結環 2 0 (6 可 閱第五及五之一圖 1 電器 2 2 2 1 ) 驅使發 ( 6 ) 之中心齒 經由齒輪環 (6 0 (6 2 2 ) 中心旋轉所產 1 ) 旋轉 ,則發電 器 生之電流,可作用發 聲 器 ( 6 4 8) 出聲及LED燈 5) 亮起者 另 當 轉 體 (6 ) 停止轉動 發 登 器 8 ) 及 L E D 燈 ( 6 4 5 ) 之 作 用 隨 即 停 止 者

本創作健身器之主體(1)與支桿(3)連結穩固, ) 可藉以支桿(3)為水平滑軌朝著腹靠板 且主體 ( 1 4)之方向移動,並主體(1 ) 與腹靠板(4 ) ,不致產生軸向之轉動者;另轉體 3)二端之嵌固 (5 )之横段與 與連結桿(5 )之豎段樞合,且連結桿 主體(1)嵌合穩固,可增進轉盤 (6 ) 樞轉時之穩固性 及使用安全性,其可改進習用健身器使用壽命縮短之弊端 者。

綜上所述,當知本創作具有新穎性,且本創作未見之於任何刊物,當符合專利法第97、98條之規定。

唯以上所述者,僅為本創作之一較佳實施例而已,當不能以之限定本創作之範圍。即大凡依本創作申請專利範圍所作之均等變化與修飾,皆應仍屬本創作專利涵蓋之範





四、創作說明 (8)

圍內。

附件一:日本實用新案登錄第3090218號登錄實用

新案公報影本



### 圖式簡單說明

### 五、【圖式簡單說明】

第一圖:本創作健身器之俯視立體外觀圖

第二圖:本創作健身器之仰視立體外觀圖

第三圖:本創作健身器之構件分解圖

第四圖:本創作健身器之構件組設剖視圖

第五圖:本創作健身器之轉體剖視詳圖

第五之一圖:本創作健身器之轉體 A - A 視圖

第六圖:本創作健身器之轉體立體詳圖

第七圖:本創作健身器之主體剖視詳圖

第八圖:本創作健身器之連結桿另一實施例

第九圖:本創作健身器之連結桿另一實施將轉體垂直

地面之示意圖

### 本創作圖中參照號數:

1 主體 11 上環

1 1 1 滑 槽 1 1 2 容 桿 槽

113電子計數器 12 下環

121滑槽 122容桿槽

123限轉桿 124感應計數器

13 彈性元件 14 滑塊

1 4 1 嵌 桿 槽 2 手 握 桿

21 嵌固段 22 操作段

3 支桿 3 1 限位槽

4 腹靠板 41 凸環



### 圖式簡單說明

- 5 連結桿
- 6 轉體
- 611凸球部
- 6 1 3 感應磁塊
- 6 2 樞轉環
- 6201 齒輪環
- 6 2 2 發電器
- 63 配重塊
- 6 3 2 螺桿
- 6 4 1 凸球部
- 6 4 3 長孔
- 6 4 6 L E D 燈
- 6 4 8 發 聲 器

- 5 a 連結桿
- 6 1 上盤
- 6 1 2 穿孔
- 6 1 4 滑塊槽
- 620 連結環
- 621樞轉凸環
- 6 2 2 1 齒輪
- 6 3 1 螺紋孔
- 6 4 下盤
- 6.42 滑塊槽
- 6 4 5 穿孔
- 6 4 7 電源線
- 6 4 9 容器槽

### 五、申請專利範圍

其特徵在於:

主體之上環中心處預設有向下之半圓形滑槽,並上環之滑槽上方嵌設一電子計數器者;其下環中心處預設有向上之半圓形滑槽,且下環之後端容桿槽下方穿設一限轉桿,並下環之前端容桿槽下方嵌固一感應計數器者;滑塊,其套設銜接於彈性元件後端,且活動於上環、下環之滑槽內部者;

支桿,為前端與滑塊結合一體之横向桿體,於支桿下方凹設一限位槽,且支桿前端嵌入上環、下環之滑槽內部者;

連結桿,係上横段嵌入上環、下環前端容桿槽內部之 「形桿體;

轉體之凸球部頂端設一穿孔,且穿孔之旁側組設一感





### 五、申請專利範圍

應磁塊,並凸球部之底緣與滑塊槽銜接者;其樞轉環,係上端穿貫凸球部之穿孔,再與連結桿之下豎段套固一體之凸形環體,此樞轉環之下端散出凸球部之內端面吻合,且樞轉環之底緣設一樞轉凸環者;配重塊,係中心處設有螺紋孔可供螺桿由下伯上螺入配重塊中心者;

其主體與支桿連結穩固,且主體可以支桿為軌朝著腹靠板之方向移動,並主體與腹靠板藉由支桿二端嵌固不致產生軸向轉動者;當主體產生水平向畫圓之動作,可帶動具有配重塊之轉體平行主體樞轉,俾達到運動手臂、腰部及腹部之健身功效者。

2、如申請專利範圍第1項所述「手、腰健身器 之改良」,其中,主體之滑塊二側設有平行切面,其中, 可移動於上環對應組成之滑槽內部,提別 亦設以二側具有平行切面之嵌桿槽,其嵌桿槽可供支桿的 端二側設有平行切面之嵌合段插入,另支桿後端二側。 具有平行切面之嵌合段插入的壁凸環具有平行 切面之嵌合段,可穩固連結,俾以杜絕 主體產生軸向旋轉者。

3、如申請專利範圍第1項所述「手、腰、腹健身器之改良」,其中,位於凸球部旁側之感應磁塊,在使用者施力操作致使轉體以連結桿之豎段為軸旋轉時,其感應磁塊與主體前端底面之感應計數器之間,可產生間歇性之磁





### 五、申請專利範圍

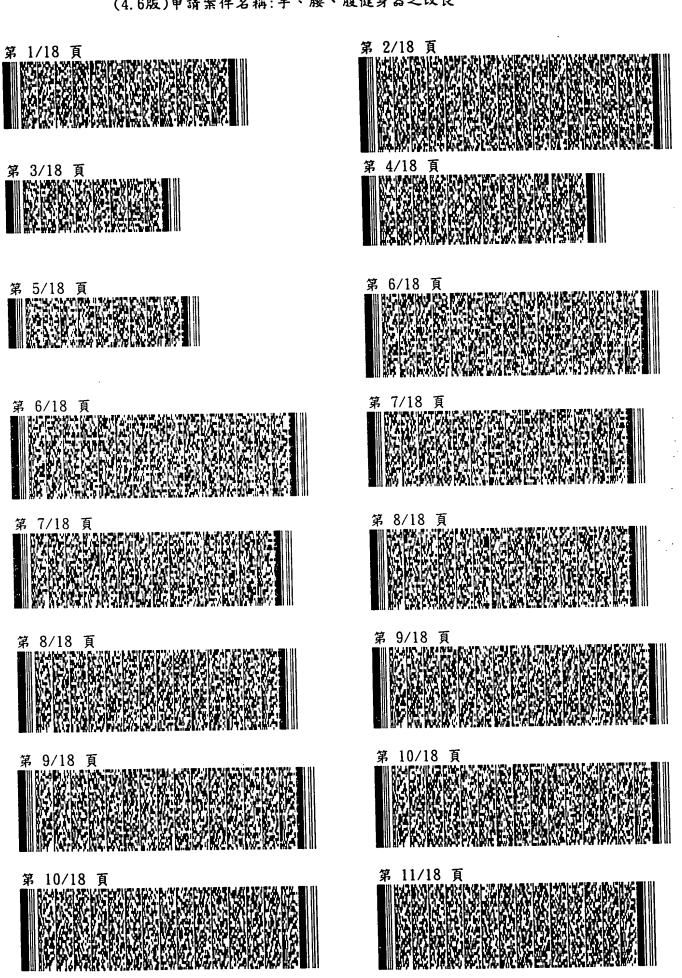
力吸、放感應,此磁力吸、放感應訊號可傳輸至位於上環上方之電子計數器,進而顯示經過計數之轉體轉動數值者

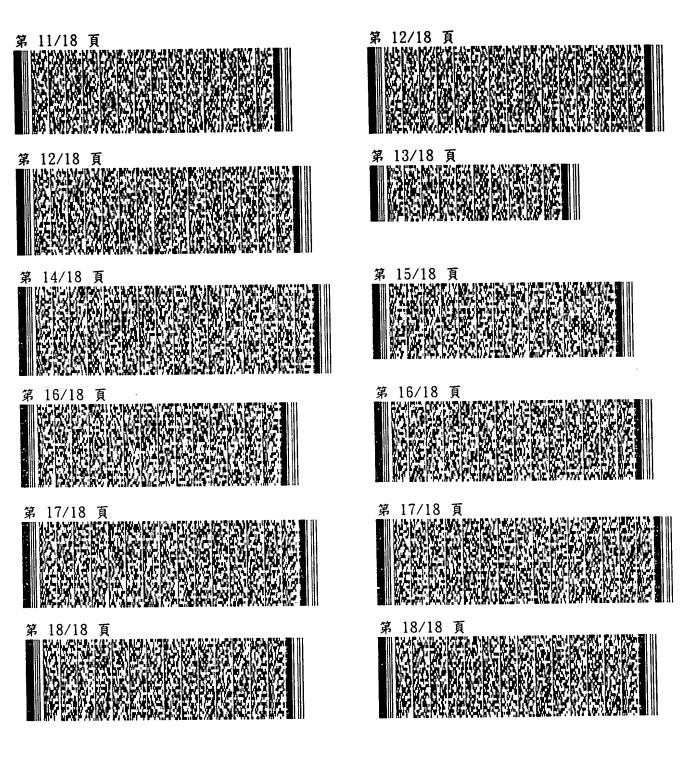
5、如申請專利範圍第1項所述「手、腰、腹健身器之改良」,其中,具有二端部之一形連結桿,亦可設為具有三端部之一形,其一形連結桿之外端及內端皆可與轉體之樞轉環上端套固,則轉體可平行主體及垂直主體樞轉者

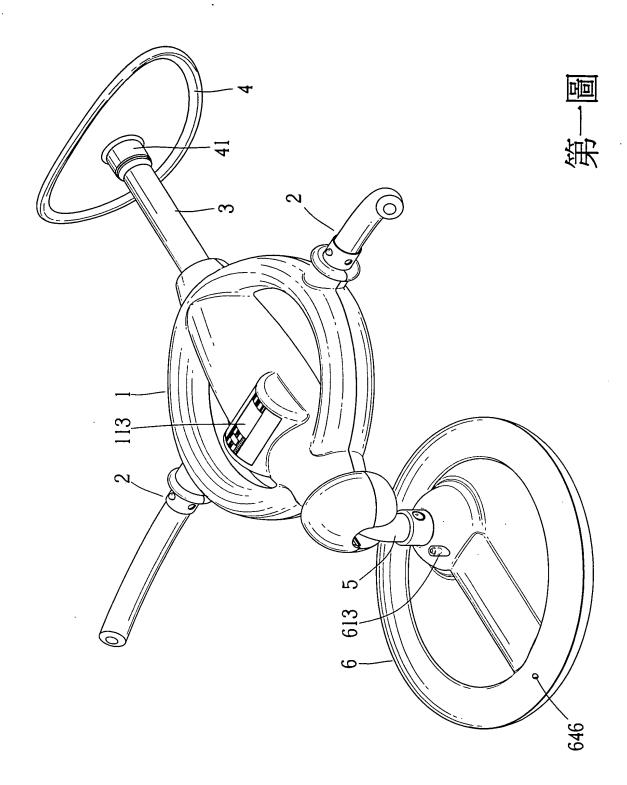
6、如申請專利範圍第5項所述「手、腰健身器之改良」,其中,轉體樞設於一形連結桿外端與主體垂直組設,施力操作主體產生垂直向畫圓之動作,可帶動具有配重塊之轉體垂直主體樞轉,則施力之操作者可藉由手、腰、腹上下畫圓之動作,達到運動手部、腰部及腹部之健身功效者。

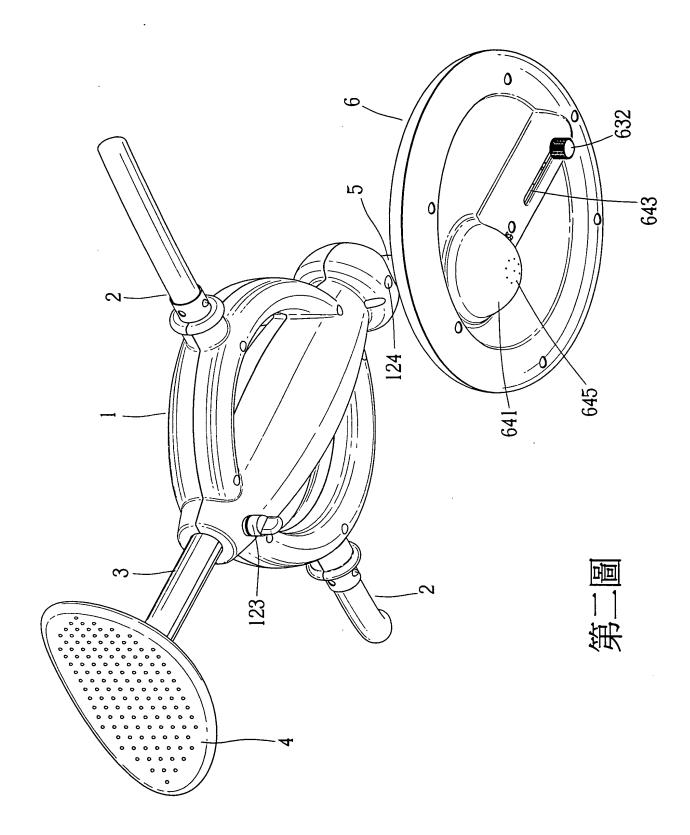






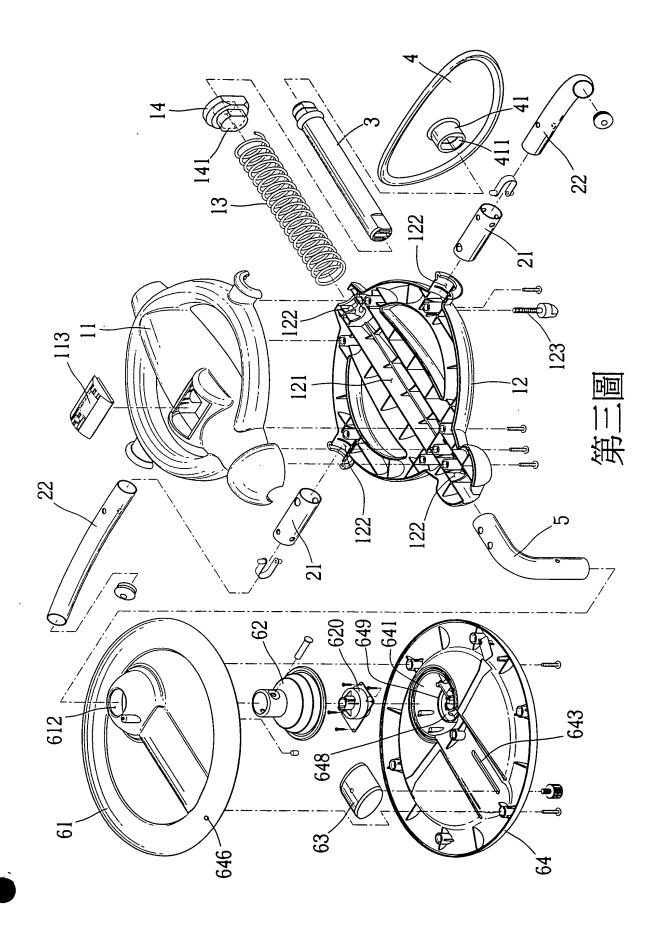


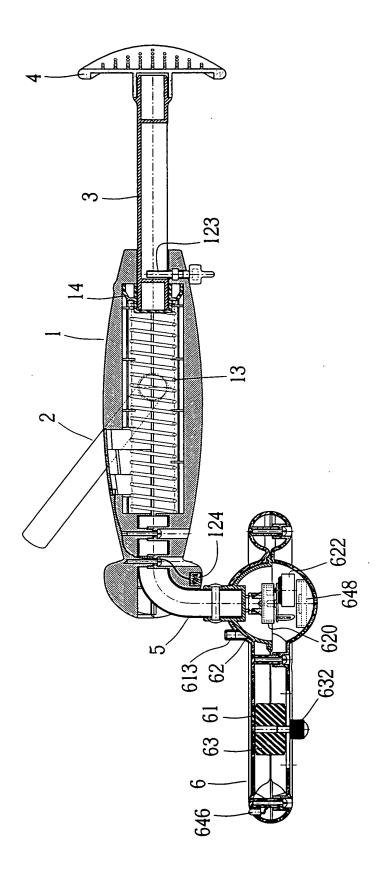


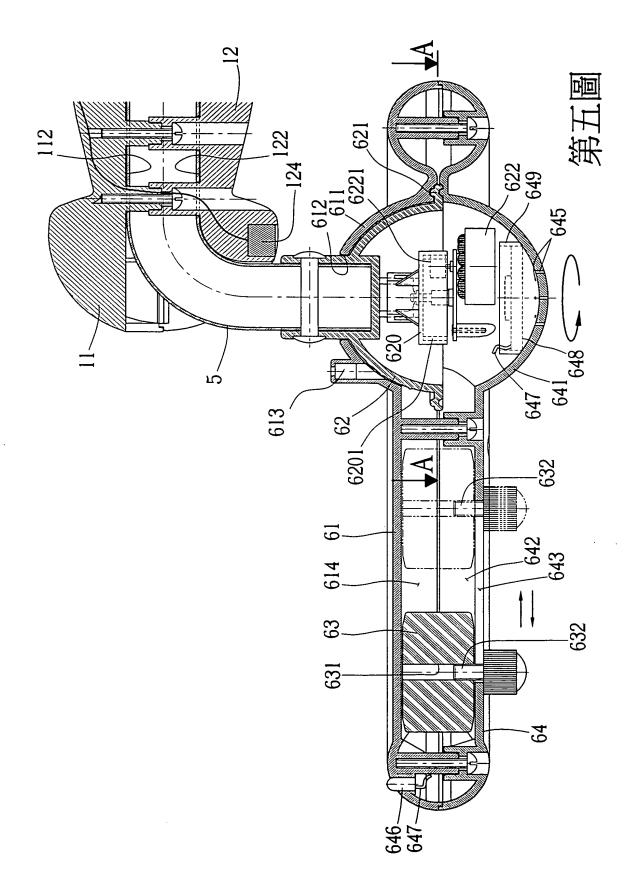


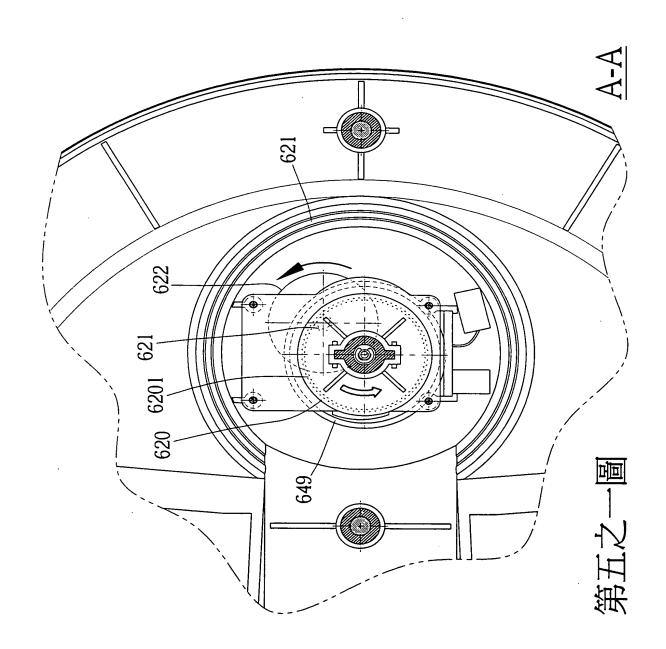
1

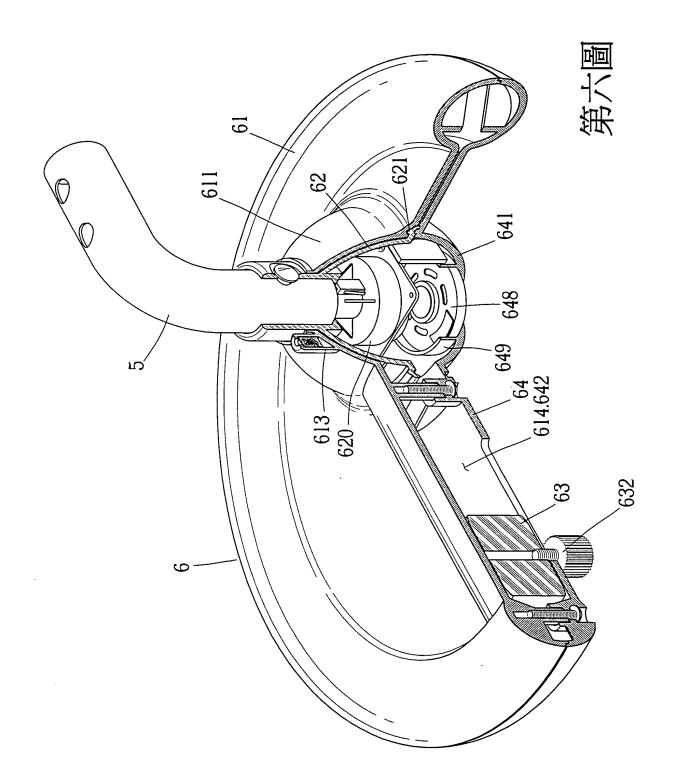
(



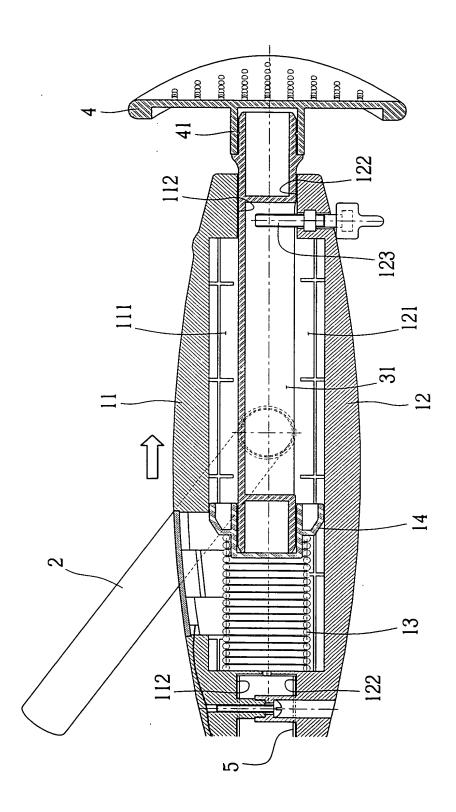






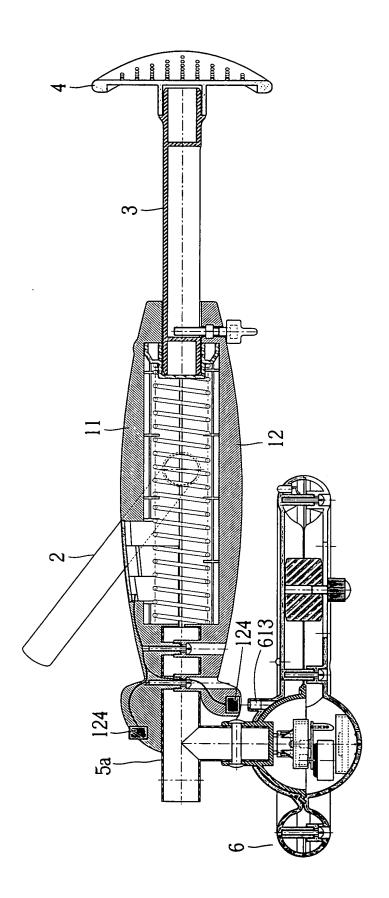


. .



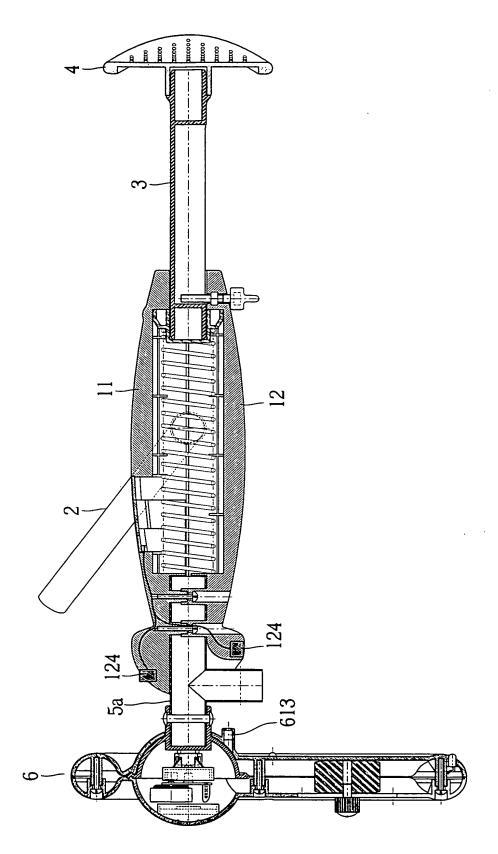
C

. ..



·"

6



.

A 6 3 B 23/02

# (19)日本国特許庁 (JP) (12) 登録実用新案公報 (U)

(11)実用新案登録番号

実用新案登録第3090218

(U3090218)

(45)発行日 平成14年11月29日(2002.11.29)

(24)登録日 平成14年9月11日(2002.9.11)

(51) Int.Cl.7

識別記号

FΙ

A 6 3 B 23/02

評価書の請求 未請求 請求項の数1 〇L (全 10 頁)

(21)出願番号

(22)出願日

実願2002-3027(U2002-3027)

平成14年5月23日(2002.5.23)

(73) 実用新案権者 502184895

姜 智 友

台湾台北縣三重市後竹圍街235號四樓

(72)考案者 姜 智 友

台湾台北縣三重市後竹圍街235號四樓

(74)代理人 100070150

弁理士 伊東 忠彦 (外2名)

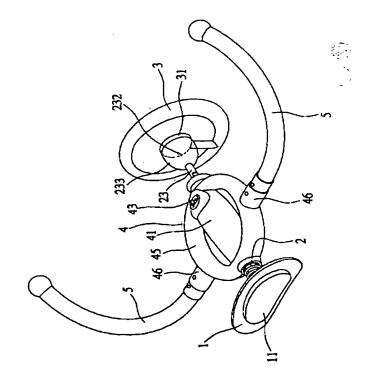
(54) 【考案の名称】 健康維持装置

(57) 【要約】

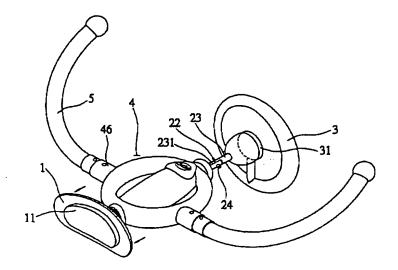
(修正有)

【課題】 運動効果を高めて体力を強化し、健康を維持 することができる健康維持装置を提供することを目的と

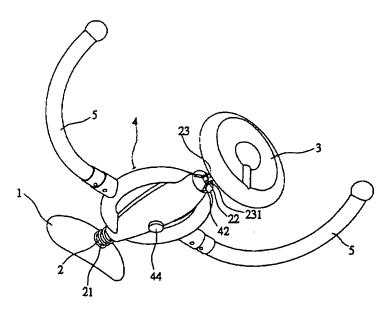
【解決手段】 弧形に形成されたプレート1と、一本の 圧縮スプリングが嵌められ、U形ノッチが設けられた支 持ロッド2と、U形ノッチと嵌め込まれた突出し段を有 する連結ユニット23と、U形ノッチと突出し段との凸 凹の接合位置に、横方向に配置された枢設ロッドと、連 結ユニットの別端に設けられ、球面凹溝を有する結合ブ ロックと、偏心する重りと中心に球面凸体とが設けられ た回転盤3と、中央位置に中字形に形成されたセンター ロッド41と、外環45と、十字形の嵌め込み溝と、数 値表示スクリーン43と、締め付けユニットとが設けら れた本体4と、外環の両端に設けられたロッド固定段4 6と、内端とロッド固定段と連結された二手握りロッド 5とを有する。



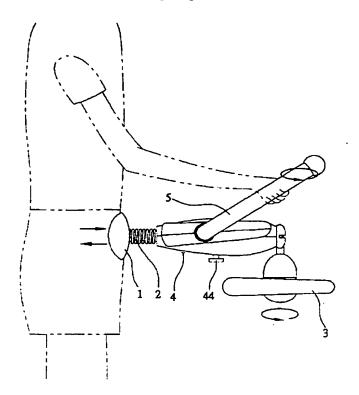
[図2]



【図3】







.'

### 【考案の詳細な説明】

[0001]

### 【考案の属する技術分野】

本考案は健康維持装置に係るものであり、特に、健康を維持するために手、腰、腹部等に使用する健康維持装置に係るものである。

[0002]

### 【従来の技術】

従来、健康維持装置は、利用者の運動不足を解消するために身体の各部の筋肉や血行を良くするため様々な機能を有する構成とされている。例えば、手、腕等の運動を行うための機能を有する健康維持装置は、両手で握るための把持部と、各把持部で接続された支持ロッド等の要素から構成されている。この健康維持装置は、把持部を左右上下に、支持ロッドの中心方向に力を加える動作を繰り返すことにより、手、腕の筋肉を強化することができる。このような健康維持装置において、機能性を向上させるための研究、開発、改良が行われている。

[0003]

### 【考案が解決しようとする課題】

しかしながら、上記のような健康維持装置において、手、腕等に限定した箇所での運動機能を有するのみで、他の部位の運動を行うことができないため、利用者の身体全体の運動効果を得ることができず、体力を強化するのが難しいという問題点があった。

[0004]

本考案は、健康維持装置において、運動効果を高めて体力を強化し、健康を維持することができる健康維持装置を提供することを目的とする。

[0005]

### 【課題を解決するための手段】

前記の目的を図るために、本考案は、利用者の腹部に沿うように弧形に形成され、内端面に柔らかいクッションが設けられたプレートと、T字形状に形成され、内端と前記プレートの中段とに設けられ、内端外部に一本の圧縮スプリングが 嵌められ、外端にU形ノッチが設けられた支持ロッドと、前記U形ノッチと嵌め 込まれた突出し段を有する連結ユニットと、前記U形ノッチと前記突出し段との 凸凹の接合位置に、横方向に沿って配置された枢設ロッドと、前記連結ユニット の別端に設けられ、球面凹溝を有する結合プロックと、円形に形成され、偏心する重りを有し、中心に前記球面凹溝に嵌め込まれる球面凸体が設けられた回転盤 と、中央位置に前記支持ロッドを挿入するために中字形に形成されたセンターロッドと、外環と、十字形の嵌め込み溝と、数値表示スクリーンと、締め付けユニットとが設けられた本体と、前記外環の両端に、対称に位置するように設けられたロッド固定段と、弧形に形成され、内端と前記ロッド固定段と連結された二手握りロッドとを有し、前記二手握りロッドに垂直方向又は水平方向に力を加えて前記回転盤を回転させることにより、運動効果を高めて体力を強化し、健康を維持することができる。

### [0006]

以下に添付図面を参照して本考案のある好適な実施の形態を詳細に説明するが 、それらの構成は本考案の構造の絶対的な制限にならない。

### [0007]

#### 【考案の実施の形態】

図1は、本考案の健康維持装置の回転盤と主体の垂直設置状態を示す上方からの斜視図である。図2は、本考案の健康維持装置の主体を内部に移動させた状態を示す斜視図である。図3は、本考案の健康維持装置の回転盤と主体の垂直設置状態を示す下方からの斜視図である。図4は、本考案の健康維持装置を垂直設置状態で使用した例を示す側面図である。図5は、本考案の健康維持装置の回転盤と主体の水平設置状態を示す上方からの斜視図である。図6は、本考案の健康維持装置を水平設置状態で使用した例を示す側面図である。

#### [0008]

本考案の健康維持装置において、手、腰、腹部等の運動及びマッサージに使用され、各部と接触させるためのプレート1、支持ロッド2、回転盤3、本体4、両手で握るための二手握りロッド5などにより構成されている。プレート1は、腹部に沿うように弧形に形成されている。プレート1の内端面には、身体に接触するため、柔らかいクッション11が設けられている。



### [0009]

支持ロッド2は、T字形状に形成され、内端とプレート1の中段に設けられた連結用ロッドである。支持ロッド2の内端外部には、一本の圧縮スプリング21が嵌められている。また、支持ロッド2の外端には、U形ノッチ22が設けられている。U形ノッチ22を介して、連結ユニット23の突出し段231が嵌め込まれている。U形ノッチ22と突出し段231との凸凹の接合位置に、枢設ロッド24が横方向に沿って配置されている。なお、連結ユニット23の別端には、球面凹溝232を有する結合プロック233が設けられている。

### [0010]

回転盤3は、偏心する重りを有する円形板である。回転盤3の中心には、球面 凸体31が設けられている。球面凸体31は、支持ロッド2の外端における連結 ユニット23の球面凹溝232に嵌め込むことができる。

#### [0011]

本体4は、センター位置に支持ロッド2を挿入するために中字形に形成されている。図2に示すように、本体4のセンターロッド41には、回転盤3側からプレート1側へ順に、十字形の嵌め込み溝42、数値表示スクリーン43、締め付けユニット44が設けられている。また、本体4の外環45の両端に、対称に位置するようにロッド固定段46が設けられている。

### [0012]

二手握りロッド5は内端に、本体4のロッド固定段46と連結する弧形ロッドである。また、二手握りロッド5は本体4との接続角度が鋭角になるように接続される。

### [0013]

支持ロッド2は、U形ノッチ22と連結ユニット23の突出し段231との枢設、接合箇所において、本体4が通常の状態、圧縮スプリング21のテンション作用力で、外側へ押されているうちに、本体4のセンターロッド141の外端の十字形嵌め込み溝42内部に深く埋め込まれる。また、支持ロッド2のU形ノッチ22と連結ユニット23の突出し段231との枢設、接合箇所から、外側へ突き出す枢設ロッドの両端突き出し段は本体4のセンターロッド41の外端の十字

形嵌め込み溝42内部に嵌め込まれる。

### [0014]

これにより、回転盤3と本体4との横方向T字形連結は確実、安定かつ強固に接続される。このとき、本体4のセンターロッド41の下方における締め付けユニット44を螺合する。

### [0015]

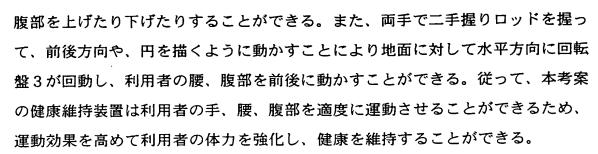
締め付けユニット44は、本体4と回転盤3との横方向T字形連結の確実、安定かつ丈夫な性能を向上させる。具体的には、支持ロッド2のU形ノッチ22と連結ユニット23との枢設、接合箇所において、本体4が圧縮スプリング21をプレート1の方向に移動させるときに(図2参照)、回転盤3の偏心重りが、回転盤3を枢設ロッド24中心に、連結ユニット23につれて下方へ自在に回転させる(図5参照)。本体4が圧縮スプリング21のテンション作用力で外へ戻るときに、連結ユニット23の突き出し段231が本体4のセンターロッド41の外側における十字形の嵌め込み溝42内部に嵌め込まれる。回転盤3と本体4との平行連結は確実、安定かつ強固に接続される(尚、回転盤3と支持ロッド2は横方向T形連結となる。)このとき、本体4のセンターロッド41の下方における締め付けユニット44を螺合する。締め付けユニット44を螺合する。締め付けユニット44を螺合する。

#### [0016]

また、本考案の健康維持装置は、回転盤3が支持ロッド2の連結ユニット23を介して本体4と横方向T形のように連結すると、回転盤3の重りが下方に位置するようになる(図1、図3、図4参照)。従って、利用者により垂直、水平方向に沿って力が加えられると、偏心の重りを有する回転盤3が適度に回る。これにより、利用者の腰、腹部では、例えば、フラフープなどの丸い輪を使って運動するのと同様の運動効果を得られ、また、手部では、力を加えることにより運動効果が得られる。

#### [0017]

例えば、利用者の両手で二手握りロッド5を握って、上下方向や、円を描くように動かすことにより地面に対して垂直方向に回転盤3が回動し、利用者の腰、



[0018]

### 【考案の効果】

前記の説明と図面の掲載からわかるように、本考案の健康維持装置において、運動効果を高めて体力を強化し、健康を維持することができる。